

1-07 パラ・ロウイング種目と視覚障害

1 パラ・ロウイング種目

●障害者のボート競技はパラ・ロウイング（以前はアダプティブ・ロウイング）といます。2002年の世界漕艇選手権、2008年のパラリンピックから始まりました。

●パラ・ロウイングには、いくつかの種目があります。

LTA4+ : 四肢障害や視覚障害のある人たちの編成による舵手付フォア

LTA2× : 四肢障害や視覚障害のある人たちの男女によるダブルスカル

TA2× : 上体と腕だけで漕ぐダブルスカル

ASM1× : 肩～腕だけで漕ぐ男子シングルスカル

ASW1× : 肩～腕だけで漕ぐ女子シングルスカル

●結果的に、視覚障害者に用意されているのはLTA4+とLTA2×です。2007年までのルールでは、「視覚障害2名のうち少なくとも1名が、視覚障害クラスがB1かB2（下記）でなければならない」という条件がありました。しかし08年に改訂され、視覚障害者は2名以内となりました。つまり肢体障害3名+視覚障害（B3）1名の編成も可能となりました。

●注意：歴史が浅いため、国際ルールもそれに準ずる国内ルールも、頻繁に改訂されます。最新の情報に注意してください。ただし、国内では規定や種目、選考の制約にとらわれず、広く活動する人を増やそうという方針もあります。障害に応じて自由にロウイングを開拓、展開して欲しいと思います。

2 ブラインドのカテゴリーとアイウェア（アイマスク）

2.1 障害者スポーツにおける視覚障害のクラス分類

●パラ・ロウイングの大会（世界選手権やパラリンピック）に参加する視覚障害者は、国際視覚障害者スポーツ連盟（IBSA）のルールに基づき、認定された眼科医の検診により、視力や視野が厳密に測定されます。視力や視野により、B1～B3の3クラスに区分されます。これは、他の障害者スポーツにも共通する区分です。

B1 : 全盲か光覚。全く視覚がないか、光覚（光を感じることはできるが、距離や方向が認知はできない）。（多くの競技で、念のためアイマスクを着用）

B2 : 手の形を認知できる（手動弁）～視力0.03まで。または視野が5度以下。

B3 : 視力が0.03以上～0.1以下。または視野が5度以上～20度以下。障害者手帳を持っていること。

2.2 パラ・ロウイング種目における視覚障害者の適用

●視覚障害者がLTA4+またはLTA2×に乗る場合、視覚障害クラス（B1～B3）の全ての漕手に一律に、アイウェア（アイマスク）の着用が義務づけられます。アイウェアは、「大会初日から終了までの（練習を含む）乗艇中は、常に着用」しなければなりません。

●そのため、大会を目的とするなら、練習でも、視覚に全く頼らないで漕げるようになる必要があります。

●補足：個人的には、障害があっても、使える視力・視野を駆使して漕げるようなチャレンジが選択できることを望んでいます。